



信用金庫の地区別預貸金動向 — 預貸率と貸出金利回りの現状 —

視点

近年、地域人口の長期的趨勢とその地域経済、ひいては地域金融機関の経営環境への影響について活発に議論されるようになってきた。地域金融機関は、そうした各地域での議論を踏まえて、自らの将来像を模索している。実際、各地域では、地域金融機関をとりまく経営環境も様々である。本稿では、信用金庫の戦略策定の際の参考として、その本業である預貸金が近年、どのように推移し、地区ごとにどのような状況にあったのかについて、預貸率と貸出金利回りに焦点を当てて確認することとする。

要旨

- 全国合計ベースで見ると、近年、預金に比べ低かった信用金庫の貸出金の増減率が急回復し、預貸率の低下ペースも鈍化している。一方、貸出金利回りは、1991年度の7.75%をピークに低下し続け、2013年度には2.01%となっている。
- 地区別に14年12月末までの5年間の預貸金の増減率をみると、預金に比べて貸出金が伸びにくい環境を映している。この間、全11地区で預金が増加しているものの、うち8地区で貸出金の増減率はマイナスになっている。
- 地区別に預貸率をみると、預貸率が相対的に低いグループの地区は、東日本に多く、この5年間での低下幅が大きい。逆に、四国以外は南九州を筆頭に西日本が高めである。信用金庫全体では、水準自体はおおむね国内銀行を下回っている。
- 地区別に信用金庫の貸出金利回りをみると、08年度から13年度の5年間でおおむね0.5ポイント低下した。南九州、四国、東北、九州北部、中国の順に高く、あとは固まって分布しているが、東海だけ際立って低くなっている。
- 14年12月末の預貸率と13年度の貸出金利回りの関係をみると、南九州と九州北部が平均よりともに高く、北陸と北海道が平均よりともに低い。信用コスト控除後利回りでも同様の傾向だが、四国と北陸は貸出金利回りを大幅に下回っている。

キーワード 預貸率 貸出金利回り 信用コスト控除後利回り

目次

はじめに

1. 信用金庫の預金・貸出金増減率、預貸率および貸出金利回りの推移
2. 地区別預金・貸出金増減率の動向
3. 地区別預貸率の動向
4. 地区別貸出金利回りの動向

はじめに

近年、地域人口の長期的趨勢とその地域経済、ひいては地域金融機関の経営環境への影響について活発に議論されるようになってきた。地域金融機関は、そうした各地域での議論を踏まえて、自らの将来像を模索している。実際、各地域では、地域金融機関をとりまく経営環境も様々である。本稿では、信用金庫の戦略策定の際の参考として、その本業である預貸金が近年、どのように推移し、地区ごとにどのような状況にあったのかについて、預貸率と貸出金利回りに焦点を当てて確認することとする。

1. 信用金庫の預金・貸出金増減率、預貸率および貸出金利回りの推移

まず、全国合計ベースでみた2007年度から14年12月末までの信用金庫の預金・貸出金末残の前年同月比増減率と預貸率の推移をみる(図表1)。

預金については、08年9月に起きたリーマンショック直後の同年12月末につけた1.40%を底に、増減率が上昇したが、東日本大震災後の11年度は横ばい、その後12年度にかけてやや低下した。しかし、13年度から増減率は上昇し始め、14年12月末には2.79%に達している。

一方、貸出金については、08年4月末のマイナス0.06%から増減率が急上昇に転じ、09年2月末には2.67%に達した。これは、08年度からの原材料の高騰やリーマンショック後の景況悪化に対応した緊急保証制度の適用拡大による部分が多い。その後は、貸出金の増減率は急落し、10年5月末にはマイナス1.63%となった。しかし、東日本大震災後の11年度にはマイナス幅は1%未満に縮小し、第2次安倍内閣発足後の13年度から増減率が急伸、14年12月末には1.96%に達している。

(図表1) 信用金庫の預貸金末残の前年同月比増減率と預貸率の推移

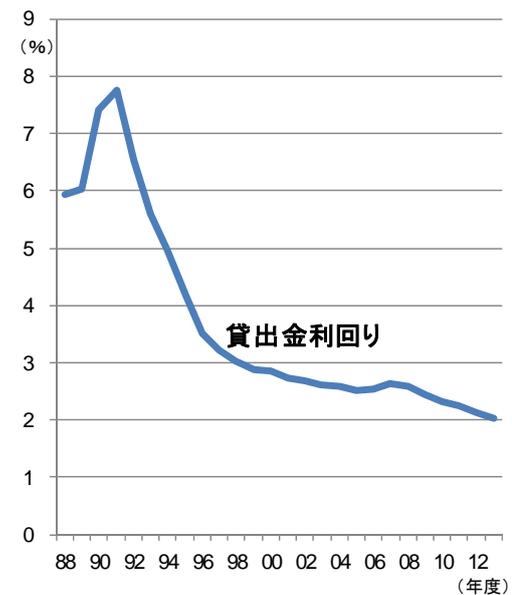


- (備考) 1. 14年度は12月末までの9か月間
 2. 以下、本稿では預貸率は貸出金÷預金×100(%)
 3. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

預貸率は、08年6月末の54.5%から預金の伸び鈍化と貸出の伸び急伸を受けて上昇し、09年3月末には56.1%に達した。その後は09年度半ばから13年度初めまで預金増減率が貸出金増減率を2ポイント強上回る状況が続いたため、預貸率は低下傾向をたどった。13年度以降、低下ペースは鈍化したものの、14年12月末には49.4%にまで低下している。

一方、貸出金からの収益性を示す貸出金利回りに目を転じると、91年度の7.75%をピークに低下し続けている(図表2)。途中、05年度から07年度まで上昇したものの、再び低下に転じ、13年度には2.01%となっている。

(図表2) 信用金庫の貸出金利回りの推移

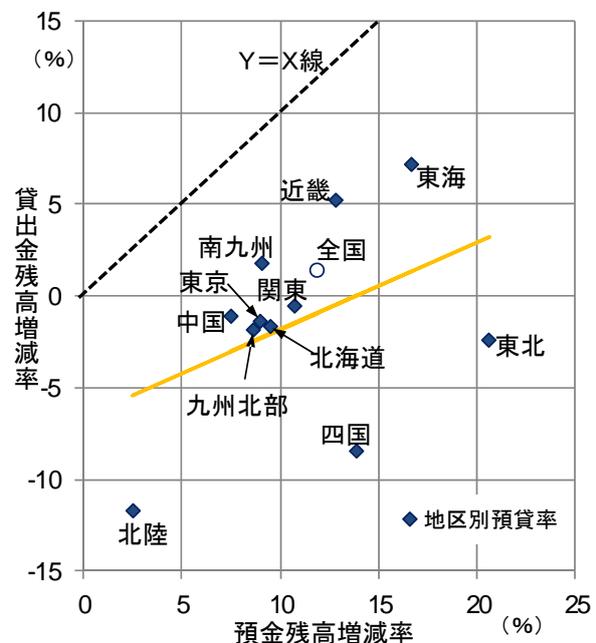


(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別預金・貸出金増減率の動向

次に、近年の信用金庫の預貸金の動向を地区別にみていく。リーマンショックを経て09年12月末から14年12月末までの預金と貸出金の増減率(5年間)の関係を対比すると、預金増減率が高いほど貸出金増減率が高い右上がりの関係にある(図表3)。その関係は、図表3の直線のように表わされる。この直線は、預金増減率が13.8%の場合に貸出金増減率はゼロであることを示し、預金に比べて貸出金が伸びにくい環境を映している。実際、この5年間に全11地区で預金が増加しているものの、うち8地区で貸出金の増減率はマイナスになっている。

(図表3) 信用金庫の預貸金残高増減率(5年間)



(備考) 1. 増減率は2009年12月末から2014年12月末までの増減率
 2. 以下、地区は関東に新潟、山梨、長野を含み、東海は静岡、愛知、岐阜、三重の4県、九州北部は福岡、佐賀、長崎の3県、南九州は熊本、大分、宮崎、鹿児島島の4県。沖縄は全国に含む。
 3. 以下、信用金庫の地区別残高は本店所在地ベース
 4. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

伴う保険金等の流入により被災3県（岩手、宮城、福島）を中心に預金が大幅に伸びたと考えられる。実際、震災から約1年後の12年3月末の東北の預金増減率は、7.5%増とこの5年間で最も高くなっている。

3. 地区別預貸率の動向

前述のような信用金庫の5年間の預貸金の増減に伴い、同期間に地区別の預貸率がどう変化したかを示したのが図表4である。

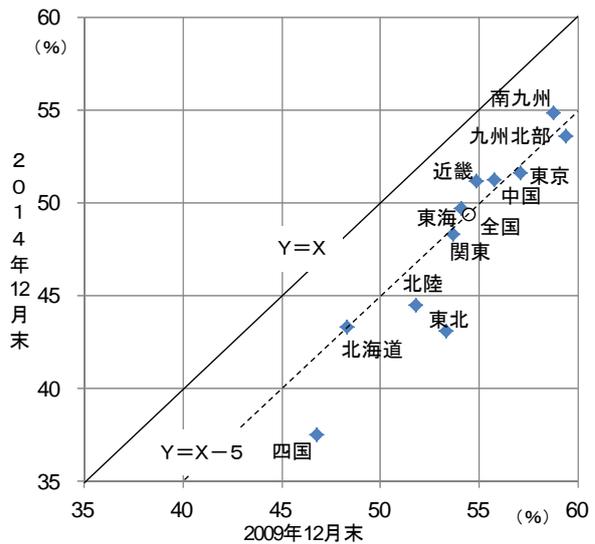
09年12月末の預貸率をX軸、14年12月末の預貸率をY軸にとると、多くの地区が $Y = X - 5$ 線の周辺にある。これは、5年間で預貸率が5ポイント前後低下したことを示している。11地区の中での順序に一部入れ替わりがあるものの、おおむね5年前に預貸率が相対的に高い地区が5年後も高めである。

預貸率が相対的に低いグループは、東日本が多く、預貸率のこの5年間の低下幅が大きい。逆に、四国以外は南九州を筆頭に西日本が高めである。

こうした地区別の預貸率の傾向が信用金庫特有のものなのか、銀行も含むより一般的なものなのかを確認するため、国内銀行の状況をみたものが図表5である。国内銀行の預貸率は、おおむね $Y = X$ 線と $Y = X - 5$ 線の間にはまっている。なお、地区別残高は、国内銀行の場合は店舗所在地ベースでの集計となっている。

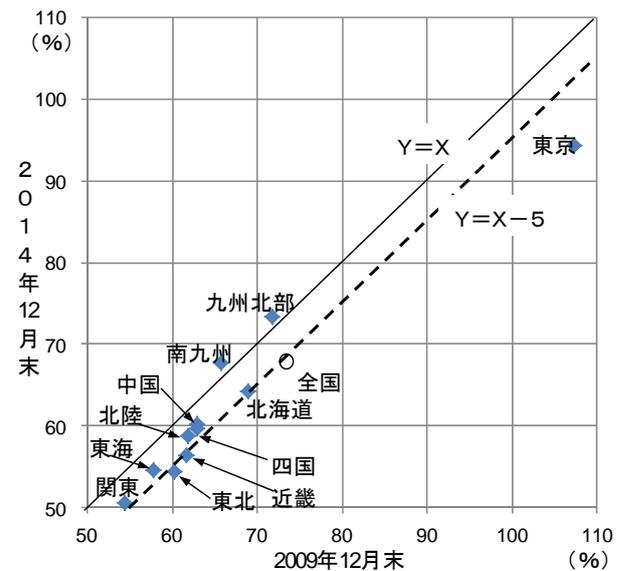
まず、地区別にみると、東京は、5年間に預貸率が約13ポイント低下したものの、14年12月末も5年前も突出して高くなっている。やはり、主要行や地方銀行の東京での大企業向け融資が大きく影響しているとみられる。

(図表4) 信用金庫の地区別預貸率の推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表5) 国内銀行の地区別預貸率の推移

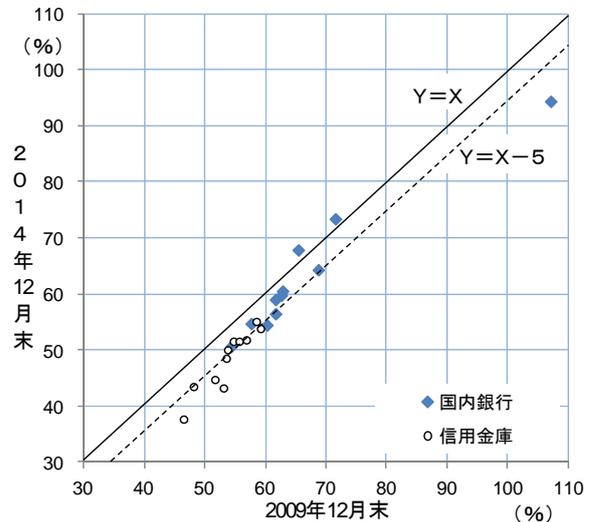


(備考) 1. 以下、国内銀行の地区別預貸金残高は店舗所在地ベース
 2. 地区区分は信用金庫と同様
 3. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

国内銀行の九州北部、南九州は、信用金庫と同様、預貸率が全国のなかで高めの地区であり、5年前に比べて預貸率が上昇している。一方、国内銀行の北海道は信用金庫の場合と異なり、全国の中で預貸率が高めの地区である。北海道では、地公体向けと個人向けを中心に地域銀行の貸出残高が信用金庫を大きく上回っている状況も反映している。逆に、国内銀行の場合、関東、東海、近畿の預貸率が低い点も信用金庫と異なっている。

信用金庫と国内銀行の預貸率の水準に大きな開きがあることも特徴的である。図表4と図表5をつないで、1つのグラフにしてみると（図表6）、国内銀行の下位3地区と、信用金庫の上位6地区が重なるが、それ以外は、5年前も今も国内銀行の預貸率がより高い右上に、信用金庫の預貸率がより低い左下に分布していることがわかる。

（図表6）国内銀行と信用金庫の地区別預貸率



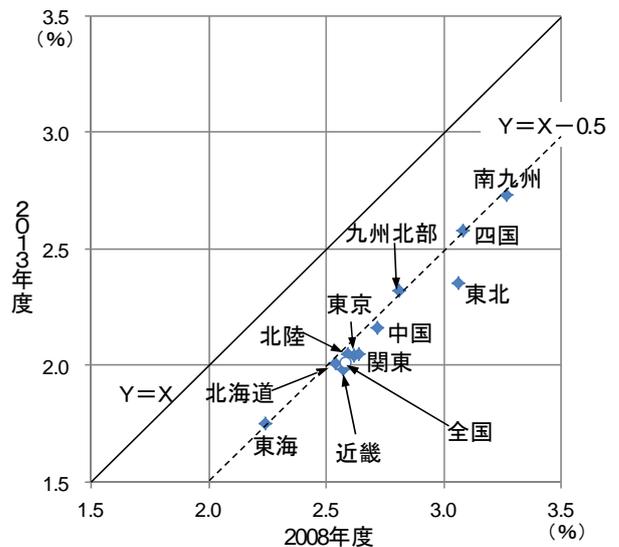
（備考）1. 全国と地区名を省略したほかは図表4、5に同じ。
2. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

4. 地区別貸出金利回りの動向

一方、貸出金からの収益性を示す信用金庫の貸出金利回りは、同じ5年間でどう変化したのだろうか。図表7は、X軸に08年度の、Y軸に13年度の地区別の貸出金利回りをプロットしたものである。おおむね $Y = X - 0.5$ 線の周辺に分布しており、5年間で0.5ポイント前後低下したことになる。

地区別では、5年間で11地区の中での順序は大きく変化していない。南九州、四国、東北の順に高く、九州北部、中国がそれに続いている。東北は、08、13年度とも貸出金利回りが3番目に高いが、5年間の低下幅が他の地区より大きい。これは、東日本大震災の後、復興資金のための保証制度等が多く出てきたことが影響している。続いて5地区が全国平均を囲んで集まっている。貸出金利回りが際立って低いのが東海であり、厳しい金利競争を映しているのかもしれない。

（図表7）信用金庫の地区別貸出金利回り



（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

次に、14年12月末時点の預貸率（X軸）および13年度の貸出金利回り・信用コスト控除後利回り¹（Y軸）の関係をみたのが図表8である。地区ごとの単純平均は預貸率が約48%、貸出金利回りが約2.2%、信用コスト控除後利回りが約2.0%である。預貸率および貸出金利回り・信用コスト控除後利回りがともに全国平均を上回る地区は、貸出金からの収益性が相対的に高く、ともに下回る場合は相対的に低い状況にあることになる。それ以外は、預貸率および貸出金利回り・信用コスト控除後利回りの一方が平均より高く、もう一方が低い状況にある。

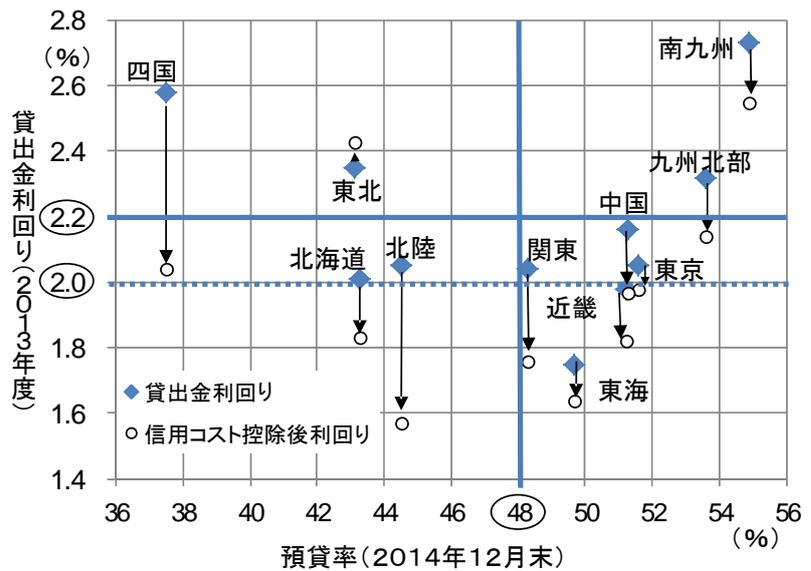
貸出金利回り、信用コスト控除後利回りともに平均を上回る地区が南九州と九州北部、ともに下回る地区が北海道と北陸となっている。

なお、貸出金利回りと信用コスト控除後利回りの乖離幅は、北陸と四国で0.4ポイント超と、他を大きく上回っている。

これまでみてきたように、各地区の預貸率や貸出金利回りは地域経済の状況を反映したものであり、地区間の温度差はあるにせよ、信用金庫業界全体が貸出市場において、預貸率と貸出金利回りの低下という変化にさらされている。こうした近年の状況を踏まえるならば、各信用金庫が将来像を検討していく際には、地域ごとの経営環境とその構造要因の把握、分析を引き続き進めていくことが必要である。

以上
(間下 聡)

(図表8) 信用金庫の地区別預貸率と利回り



- (備考) 1. 地区ごとの単純平均は、預貸率が約48%、貸出金利回りは約2.2%、信用コスト控除後利回りが約2.0%
 2. 信用コスト控除後利回り = (貸出金利息 - 信用コスト) ÷ 貸出金平残
 信用コスト = 一般貸倒引当金繰入額 + 個別貸倒引当金繰入額 + 貸出金償却 - 貸倒引当金戻入益 - 償却債権取立益
 3. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

本レポートのうち、意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。また当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこのレポートは作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。

¹ 信用コスト控除後利回り = (貸出金利息 - 信用コスト) ÷ 貸出金平残である。ここで、信用コスト = 一般貸倒引当金繰入額 + 個別貸倒引当金繰入額 + 貸出金償却 - 貸倒引当金戻入益 - 償却債権取立益

信金中央金庫地域・中小企業研究所 活動状況
(2015年2月末現在)

○レポート等の発行状況 (2015年2月実績)

発行日	分類	通巻	タイトル
15.2.2	内外金利・為替見通し	26-11	景気は回復基調を取り戻しつつあるが、物価上昇率は一段と鈍化
15.2.18	金融調査情報	26-5	目利き融資を展開する「攻めのABL」(その2)ー石巻信用金庫の取組みに見る地域企業応援の方向性ー
15.2.18	経済見通し	26-5	実質成長率は14年度▲0.8%、15年度1.8%、16年度2.2%と予測 ～民需主導で景気は再び回復軌道へ～
15.2.25	産業企業情報	26-9	中小企業における2015年の経営環境ー第158回全国中小企業景気動向調査(特別調査)よりー

○講演等の実施状況 (2015年2月実績)

実施日	講演タイトル	主催	講演者等
15.2.4	「第二の創業」に挑む～全国の中小企業の経営事例～	館林信用金庫	鉢嶺 実
15.2.4	信用金庫と地公体との連携事例と本中金の機能について	近畿地区信用金庫協会、信金中央金庫 大阪・神戸支店	松崎英一
15.2.5	信用金庫と地公体との連携事例と本中金の機能について	大阪シティ信用金庫、北おおさか信用金庫、枚方信用金庫	松崎英一
15.2.6	「老舗」の経営が示唆するものは何か	埼玉縣信用金庫 上尾支店	鉢嶺 実
15.2.6	新年度の経済見通しについて	東京東信用金庫	斎藤大紀
15.2.9	中小企業を取り巻く経済・金融情勢	神奈川県中小企業団体中央会	角田 匠
15.2.10	日本経済の現状と金利・為替見通し	北陸地区信用金庫協会	斎藤大紀
15.2.12	経済セミナー	宮古商工会議所	斎藤大紀
15.2.12	環境変化からチャンスをつかむ!～全国各地の起業・創業・第二創業事例～	天草信用金庫 天草法人会	鉢嶺 実
15.2.18	医療・介護業界の動向と堅調経営を続ける介護事業者の事例	幡多信用金庫	鉢嶺 実
15.2.20	全国における若手経営者の成功事例	中栄信用金庫	鉢嶺 実
15.2.24	融資推進および医療・介護業界の動向	コザ信用金庫	刀禰和之

○統計データの公表、レポート等の発刊予定 (公表日等は変更となることがあります。)

15.3.2	内外金利・為替見通し(月刊)<26-12>
15.3.16	全国信用金庫預金・貸出金(2015年2月末)
15.3.27	全国信用金庫主要勘定(2015年2月末)
15.3.下旬	産業企業情報<26-10>金融機関のIT利活用
15.3.下旬	産業企業情報<26-11>中小建設・不動産業者のIT利活用
15.3.下旬	第159回全国中小企業景気動向調査結果<速報版>
15.4.1	内外金利・為替見通し(月刊)<27-1>

<信金中央金庫 地域・中小企業研究所 お問い合わせ先>

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目3番7号
 TEL 03-5202-7671 (ダイヤルイン) FAX 03-3278-7048
 e-mail: s1000790@FaceToFace.ne.jp
 URL <http://www.shinkin-central-bank.jp/> (信金中央金庫)
<http://www.scbri.jp/> (地域・中小企業研究所)